慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	マネジメント・コントロール・システムにおける業績評価に関する一考察
Sub Title	
Author	岩田, 学(Iwata, Manabu) 柴田, 典男(Shibata, Norio)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1750号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1750

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論　文　要　旨

所属ゼミ	柴田研究会	学籍番号	８０１２８１０３	氏名	岩田　学

（論文題名）

マネジメント・コントロール・システムにおける業績評価に関する一考察

（内容の要旨）

昨今、業績評価基準の見直しを行う企業が相次いでいる。その目的は、事業目標、リストラの基準、管理職の報酬決定と様々である。本論文では、マネジメント・コントロールにおける、業績管理システムついて、文献調査による理論的な考察を行ってから、現代企業の取り組みの状況と抱えている問題点を実証的に分析を行った。

実証研究は、事業会社 2 社とコンサルティング会社へのインタビュー、上場企業 85 社から得たアンケート回答から企業実態を分析し、組織の業績評価の実態が明らかになった。

業績評価制度は、単体経営、連結経営ともに大半の企業が、積極的に取り組んでいるが、次のような問題点があることが明らかになった。製造業では、単体経営・連結経営ともにいわゆるマネジメントサイクルを部門特性を考慮して回すシステムが未構築である。非製造業においては、特に連結経営において、本部で管理するには、関係会社の数が多く、業態が多様過ぎる実態がある。調査回答企業の中から、特に電機機器業界を分析した。同業界では他業界と比較して、経営トップ層の意思が強く反映された業績評価制度が施行されている一方で、部門の参加意識が欠如していることが明らかになった。また、単体経営に比較し、連結経営では、画一的な管理を関係会社に強いている、あるいは評価結果の賃金・処遇への反映が適切でないといった業績評価システムでの未成熟な点が見受けられた。

調査の結果から、業績評価はマネジメント・コントロール・システムの一部としてその整合性を保つべきであると考える。内部振替価格は市場価格に近い価格にすること、本社共通費は ABC 会計による配賦が好ましいこと、社内金利は全社共通の加重平均資本コストを使用すること等が業績評価を進める場合望ましく、トップのコミットメントのもと、マネジメントサイクルを円滑に回すための制度構築を行うことが必要である。また、業績評価システムでは「緩い管理」を志向する分権化が適切であり、関係会社管理においては経営管理改革とともに関係会社の統廃合を進めるべきであると考えるし、業界特性にとらわれない柔軟な制度改革にも留意すべきである。その他、バランスト・スコアカードの導入にあたっては、時間的ギャップを埋めるためのシステムを用いた運営管理が必要であり、短期志向に陥らないために、先行指標・定性指標の重要視することが必要であると考える。